

B.2 モニタリング実績

(1) 活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			モニタリング実績		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	実績値	計測対象期間 (年月日～年月日)	
FL _{PJ,heat}	プロジェクト実施後の対象設備で加熱された蒸気の使用量	kg	C	給水の流量を計測し、ブロー率を求めるための水質分析報告書を収集	月	36,969,771	2017年6月1日 ～2019年3月31日	
PV _{PJ}	プロジェクト実施後における当該プロジェクト用に製造されたバイオマス固形燃料の重量	t	A	木質チップ供給会社の請求書	月	10,570.18	2017年6月1日 ～2019年3月31日	
EL _{PJ,auxiliary-1}	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量【2017年度】	kWh	C	バイオマスボイラーの電力使用量、ベースラインLPGボイラーの設備仕様（定格消費電力）、負荷率、稼働時間をもとに算定	月	272,397	2017年6月1日 ～2018年3月31日	
EL _{PJ,auxiliary-2}	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量【2018年度以降】	kWh	C	バイオマスボイラーの電力使用量、ベースラインLPGボイラーの設備仕様（定格消費電力）、負荷率、稼働時間をもとに算定	月	305,485	2018年4月1日 ～2019年3月31日	

※1 プロジェクト計画書に記載した分類（分類A・B・Cのいずれか）とすること。

(2) 係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			モニタリング実績		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	実績値	計測対象期間 (又は計測時期)	
Δ $H_{PJ,heat}$	プロジェクト実施後の対象設備で加熱された蒸気の加熱前後のエンタルピー差	kJ/kg	I	蒸気圧力はバイオマスボイラーの仕様書の常用使用圧力（管理蒸気圧力）とする。給水温度は計測温度とする。これらをもとに飽和蒸気表から算定する。	日	2,521	2017年6月1日 ～2019年3月31日	
$CEF_{PJ,process,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料処理設備の単位生産量当たりのCO2排出係数	kgCO2/kg	III	デフォルト値（チップ、薪）	年	0.05	2017年6月1日 ～2019年3月31日	
$CEF_{electricity,t-1}$	電力のCO2 排出係数【2017年度】	tCO2/kWh	III	デフォルト値（全電源）	年	0.000496	2017年6月1日 ～2018年3月31日	2017年度全電源
$CEF_{electricity,t-2}$	電力のCO2 排出係数【2018年度以降】	tCO2/kWh	III	デフォルト値（全電源）	年	0.000463	2018年4月1日 ～2019年3月31日	2018年度全電源
ϵ_{BL}	ベースラインの対象設備のエネルギー消費効率	%	II	カタログ値（標準的設備）	—	90.65	2017年6月1日 ～2019年3月31日	高位発熱量基準
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	III	デフォルト値（LPG）	年	0.0601	2017年6月1日 ～2019年3月31日	

※1 プロジェクト計画書に記載した分類（分類Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのいずれか）とすること。

B.3 排出削減量の算定方法

B.3.1 排出削減量の評価

(1) 算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量の算定

注) 主要排出活動及び、付随的な排出活動のうちプロジェクト計画書において「排出量を算定する」とした活動のモニタリング結果に基づき排出削減量を算定すること。

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	算定値
<i>ER</i>	算定の対象とした排出活動に基づく排出削減量	tCO2	5,374
<i>EM_{BL}</i>	ベースライン排出量 ※1	tCO2	6,179.1
<i>EM_{PJ}</i>	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2	805.1

※1 B.3.2のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 B.3.4のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 B.3.4まで入力後、自動計算されます。

(2) 付随的な排出活動に基づく排出量の影響度による評価

注) プロジェクト計画書において「排出量を算定する。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する」と選択したプロジェクト実施後の付随的な排出活動の排出量の評価を行うこと。(1)で算定した排出削減量に対して計画書で定めた影響度を乗じて算定を行うこと。

排出活動	影響度 (%) ※1	排出量 (tCO2)

※1 プロジェクト計画書で評価した影響度を記載すること。

(3) 排出削減量の評価

注) (1)で算定した排出削減量から(2)で評価した排出量を差し引くことにより、排出削減量を算定すること。

記号	定義	単位	算定値
<i>ER</i>	排出削減量	tCO2	5,374
	(1)で算定した排出削減量	tCO2	5,374
	(2)で評価した排出量(※1)	tCO2	0.0

※1 (2)で評価した排出量の総和を記載すること。行を追加して記載した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

B.3.2 プロジェクト実施後排出量

注) 主要排出活動及び、付随的な排出活動のうちプロジェクト計画書において「排出量を算定する」とした排出活動について、プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び本報告において認証を申請する期間の実績値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

(考え方) ※1 対象設備の使用による主要排出量はない

(式)

記号	定義	単位	実績値
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2	0.0

※1 主要排出量の算定の考え方について記載例を参考に記入すること。

(2) 付随的な排出活動

付随的な排出活動である「バイオマス固形燃料化処理設備の使用」及び「対象設備に付帯する追加設備の使用」については、モニタリングを実施し算定を行う。
 「バイオマス固形燃料の運搬」については、影響度が1%未満のため、算定しない。
 「バイオマス原料の運搬」については、本プロジェクトでは産業廃棄物処理工場に運ばれた建築廃材を利用するため、本事業の実施に伴う追加的な排出量は発生しない。

$$EM_{PJ,S} = EM_{PJ,S,process} + EM_{PJ,S,auxiliary} \quad (式4)$$

記号	定義	単位	実績値
$EM_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の付随的な排出量	tCO2	805.1
$EM_{PJ,S,process}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2	528.5
$EM_{PJ,S,auxiliary}$	プロジェクト実施後の追加設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2	276.5

$$EM_{PJ,S,process} = PV_{PJ} \times CEF_{PJ,process,biosolid} \quad (式6,7)$$

記号	定義	単位	実績値
$EM_{PJ,S,process}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2	528.5
PV_{PJ}	プロジェクト実施後における当該プロジェクト用に製造されたバイオマス固形燃料の重量	t	10,570
$CEF_{PJ,process,biosolid}$	プロジェクト実施後のバイオマス固形燃料化処理設備の単位生産量当たりのCO2 排出係数	kgCO2/kg	0.05

$$EM_{PJ,S,auxiliary} = EL_{PJ,auxiliary} \times CEF_{electricity,t} \quad (式10)$$

記号	定義	単位	実績値

<i>EM_{PJ,s,auxiliary}</i>	プロジェクト実施後の追加設備によるプロジェクト実施後排出量	tCO2	276.5
<i>EL_{PJ,auxiliary-1}</i>	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量【2017年度】	kWh	272,397
<i>EL_{PJ,auxiliary-2}</i>	プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量【2018年度以降】	kWh	305,485
<i>CEF_{electricity,t-1}</i>	電力のCO2 排出係数【2017年度】	tCO2/kWh	0.000496
<i>CEF_{electricity,t-2}</i>	電力のCO2 排出係数【2018年度】	tCO2/kWh	0.000463

※1 付随的な排出量の算定の考え方について記載例を参考に記入すること。

B.3.3 ベースライン排出量の考え方

注) プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。
また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、評価に用いるパラメータの説明及び報告対象期間の実績値を表中に記載すること。

(1) ベースライン排出量の考え方

本方法論におけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後に投入される熱量を、バイオマス固形燃料ではなく、LPGから得る場合に想定されるCO2排出量とする。

(2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

$$Q_{BL,heat,output} = Q_{PJ,heat,output} = FL_{PJ,heat} \times \Delta H_{PJ,heat} \times 10^{-6} \quad (式14)$$

記号	定義	単位	実績値
$Q_{BL,heat,output}$	ベースラインの対象設備における生成熱量	GJ	93,201
$Q_{PJ,heat,output}$	プロジェクト実施後の対象設備における生成熱量	GJ	93,201
$FL_{PJ,heat}$	プロジェクト実施後の対象設備で加熱された蒸気の使用量	kg	36,969,771
$\Delta H_{PJ,heat}$	プロジェクト実施後の対象設備で加熱された蒸気の加熱前後のエンタルピー差	kJ/kg	2,521

B.3.4 ベースライン排出量

注) プロジェクト計画書で策定した考え方及び算定方法に基づき計算を行うこと。
また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、評価に用いるパラメータの説明及び報告対象期間の実績値を表中に記載すること。

(1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = EM_{BL,M} = Q_{BL,heat,output} \times 100 / \varepsilon_{BL} \times CEF_{BL,fuel} \quad (\text{式16})$$

記号	定義	単位	実績値
$EM_{BL,M}$	ベースラインの主要排出量	tCO2	6,179.1
$Q_{BL,heat,output}$	ベースラインの対象設備による生成熱量	GJ	93,201
ε_{BL}	ベースラインの対象設備のエネルギー消費効率	%	90.65
$CEF_{BL,fuel}$	ベースラインの対象設備で使用する燃料の単位発熱量当たりのCO2排出係数	tCO2/GJ	0.0601

(2) 付随的な排出活動

(考え方) ※1

(式)

記号	定義	単位	実績値
EM_{BLS}	ベースラインの付随的な排出量	tCO2	

※1 付随的な排出量の算定の考え方について記載例を参考に記入すること。

B.4 省エネルギー量の算定

燃料種別 (※1)	認証を申請する期間 (年 月 日～ 年 月 日)							
	エネルギー使用量			熱量換算 (GJ)※2		原油換算 (Kl)※2		
	単位	ベースライン	プロジェクト実施後	ベースライン	プロジェクト実施後	ベースライン (①)	プロジェクト実施後 (②)	ベースライン－プロジェクト実施後 (①－②)
A重油	k l							0.0
LPG	t							0
天然ガス	千Nm ³							0
LNG	t							0
都市ガス	千Nm ³							0
購入電力	kWh							0
							合計	0

※1表に記載の燃料以外を用いる場合には、行を追加して記載すること。

※2熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

B.5 再生可能エネルギー量の算定 (該当する項目のみ記入)

(1) 再生可能エネルギー由来の発電量

認証を申請する期間 (2017年6月1日～2019年3月31日)			
ベースライン	プロジェクト実施後		再生可能エネルギー由来の発電量 ③×(1-②/①)
①排出量	②付随排出量	③発電量 (自家消費分のみ)	
[t-CO2]	[t-CO2]	[kWh]	[MWh]

(2) 再生可能エネルギー熱の利用量

認証を申請する期間 (2017年6月1日～2019年3月31日)			
ベースライン	プロジェクト実施後		再生可能エネルギー熱の利用量 ③×(1-②/①)
①排出量	②付随排出量	③生成熱量	
[t-CO2]	[t-CO2]	[GJ]	[GJ]
6,179.1	805.1	93,201	81,058